

神奈川県最賃審議会 会長殿
神奈川県労働局長殿

2022年7月20日

全国一般労働組合全国協議会神奈川県
執行委員長 沢口 和善



2022最低賃金審議会への意見書

<はじめに>

2022年の最低賃金は、コロナ感染の再拡大、ロシアによるウクライナ侵攻、円安による物価高、上がらない賃金ということが、マスコミでも多々取り上げられている中での審議である。最低賃金の社会的重要性はますます増していると言わざるをえない。

すなわち、日々物価は上がっているのに賃金は上がらない、これが労働者を取りまく現実である。今年の最低賃金は、これらの情勢に対応したものでなければならない。そうしないと、労働者の生活は守れない。今年の最賃審議はかかる重要な使命を帯びている。そのことを念頭に置いた審議をお願いしたい。

しかし、このように最低賃金のあり方が根本的に問われる情勢の中にあっても、中央最低賃金審議会の目安全員協議会の結論が、突如として1年延期されてしまった。このことに強く抗議する。地方最賃審議会は中央最賃のこのような責任放棄を許さず誠実なる審議をすすめていくことを重ねてお願いする。

(1) 最賃審議の充実を！

目安全員協議会の審議の遅れは、最低賃金の審議に多大な影響を及ぼすと言わざるをえない。また、近々に最低賃金の全国加重平均を1000円にするという政府方針にもそぐわない。しかし、そもそも近年中央最賃審議会の目安に関する小委員会の労使の審議は、「意見の一致」をみることができていない。中小の経営団体は支払能力を理由に最賃アップゼロを主張してきたのでそもそも合意は不可能であったようにも思える。しかし、これらの問題は行政の施策により実現可能性が高まる問題でもある。行政は当然ながら審議会に諮問している責任においてその実現に向けた施策案を示す責任がある。本来行政はかかる補助的協議に参加するべきである。また、公益委員は労使の意見が対立している中で、政府に解決方針を出させる立場である。最賃審議会は毎年政府に支援策を要請しているが、明確な対応を行政は取ってきていないのは遺憾である。

公益委員は政府の最賃アップの意向を踏まえて目安案を公益委員案としてまとめて答申案としている。しかし、そこから一步進んで目安案の合意に向けた協議を組織化できていない。

確かに人件費を抑えて利益を上げたい経営者と賃金を上げたい労働者とが立場が対立するのは当然である。しかし、だからといって最賃法第1条に関することが議論できない理由にはならない。「労働者にアップした給料が払えないなら倒産して下さい。」労働者はそこまでは要求していない。しかし、労働者はあまりにもひどい経営の実態や、労働条件の改善を言う労働者を排除しようとする使用者には不信感を持っている。故に、労使の信頼関係の獲得から始めていく必要があると考える。とりわけ今年度は、商工会議所などの中小の経営者団体が最低賃金のアップを認める態度表明をされている。私たちは、このことに敬意を表したい。最低賃金審議会でも、当事者である非正規労働者の代表を加え、政、労、使の真摯な協議が進むことを期待する。

(2) 労働者の最低限の生活を保障し持続可能な社会を実現するための最賃制度を！

①生活保護費・教育費との関連

生活保護受給者との比較も単身者で比較して家族の生計費も負担している労働者の存在を考えていない。また、当然子供の教育、養育費も発生することもどれだけ考慮されているのか。行政が支

給する諸手当との関連も検討されなければならない。更に、高校、大学、専門学校への進学費用も必ず発生してくるものである。どこまで最低賃金で保障すべきか議論すべき問題である。

②審議会は最低生計費の検討を軽視していないか

静岡大学の中澤隼教授のマーケットバスケット方式による最低生計費の調査によると、1カ月150時間労働で計算して、時給1500円の最低賃金が必要という結果が出ている。「都会は家賃が高いから」とかいう言い訳はとっくに破綻している。最賃審議会はその最賃審議小委員会を非公開にして、議事録の開示が遅れて、結果、異議申し立てを封じてしまっている。しかし、もはや賃金格差は弊害を生むだけであることは周知の事実である。戦後の高度成長期の都市部への労働力集中の手口はいつまでも万能ではない。テレワークを前提にする企業すら登場している。

行政から諮問をうけた審議会として、このような非民主的運営は厳しく反省する必要がある。議事録のインターネットでの即日の開示等で、最低賃金の議論を広く共有して、開かれた議論が進められることを希望します。

③医療費、社会保険費の関係

また、非正規労働者の多くは、収入による所得税がかかると同時に、社会保険料が発生してくる。その為に労働者は無意味な「12月の出勤調整」で苦勞している。年収200万以下のワーキングプアと言われている低賃金労働者に、働くことを躊躇させるような制度の改善を求めます。

暑い中ですが、委員諸氏の有意義な神奈川の最賃議論を期待致します。